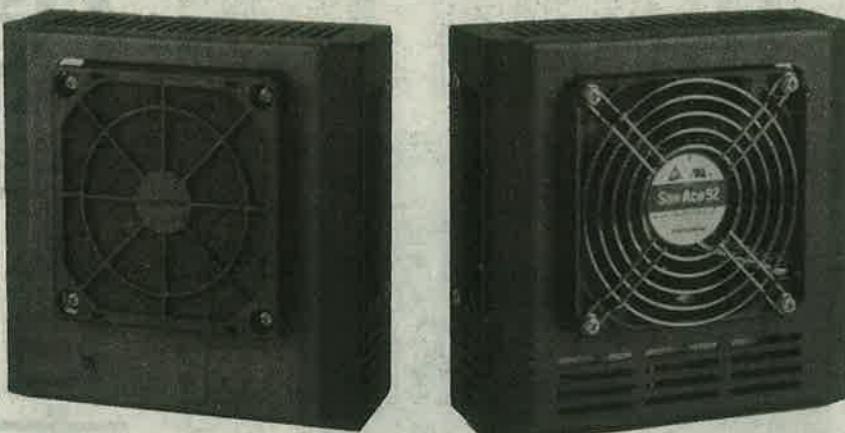


創出する 三重県産業界



排熱ユニット(左)と、冷却ユニット(右)

両ユニットは搭載され
たマグネットの磁力で
互いに引き合い、壁に
固定される。寸法は縦
143・2^{ミリ}×横15
3・2^{ミリ}。奥行きは
冷却側が66・5^{ミリ}、
排熱側が71・7^{ミリ}。
搭載されたペルチエ

技術活用

従来品は大がかりな取り換え工事が必要になるが、ヒカリラクールは増設のみで対応可能。制御装置本体を止めることも生じない。

技術活用し顧客応ける

前、半導体製造装置などの量産部品製造だが、22年7月に本社敷地内に完成、稼働させた試作専用の「第4工場」を軸に、試作を中心とした新規受注の獲得を狙う。24年12月期には試作事業で1億5000万円の売り上げを目指す。

第4工場は同社の駐車場だった場所に建設した。敷地面積は約1800平方㍍。鉄骨造

る半導体関連の割合は2割未満だが、この案件を足掛かりに量産につなげる考えだ。

中村製作所（同四日市市）は、仕上げの研磨工程のみに特化した受注を開始し、太陽工機製の立型複合研削盤をこのほど導入した。周辺機器も含めた投資額は約6000万円。研磨加工で初年度3000万円の売り上げを目指す。

追加努力で研磨工程の生産能力を上げることにより、値段や納期、精度、品質において、他の研磨に特化した企業との差別化を図る。また、発注元の部品メーカーの同工程における課題に対応する。

などあらゆる可能性を視野に入れる。国内外の大手や優良企業、スタートアップは首都圏に集中しており、そこにオフィスを設けることで、最新情報やさまざまな業種のトレンドを肌で感じることができる。加えて、同じビルに入る企業や周辺ビルに入る企業との人脈、直接会うことでしか得られない生の情報も入手可能。こうした企業とスピード

Digitized by srujanika@gmail.com

自動車エンジン部品が主力の光精工（三重県桑名市）は、電気自動車（EV）市場の拡大で従来の業務が縮小することへの対策として自社製品を開発。異なる金属を接合して電流を流すと接合部分で熱の吸収・放出が起こる現象のペルチエ効果を活用した制御ボックスクーラー「ヒカリラクール」を発売した。

制御盤を使用する設備・装置メーカーの需要を積極的に開拓し、2023年度に1億円の売り上げを目指す。

同クーラーは制御ボックスクーラーを挟み込む形で内側に冷却ユニットを、外側に排熱ユニットを取り付けて使う。

モジュールにより、通電すると内側の冷却ユニットの温度が低下。その冷気をファンによってトから排熱する。外気温が約34度C、ボックスクーラーの内部温度が約63度Cの状態で始めた社内実験では、1分後に約52度Cまで低下。その後、約47度Cで安定した状態を維持した。

また、磁力で固定されるため、従来品で必要なボックスへの穴あけ工事が不要になり、工事にかかるコストと時間を削減できる。位置の微調整や設置場所の変更、メンテナンスや撤去も容易。特に冷却能力を上げる場合、

新たに導入した「C-VG-9」は、主軸の振りが直径950ミリ、最大積載重量が2500キロで中・大型の加工対象物（ワーナー）に対応する。タレット構造による2スピンドル仕様で、内径と外径、端面を高精度に加工できる。

同社は、ダイソウ工業（同市）を中心とした企業グループ。反

るための情報収集や人脈構築などをを行う拠点として、東京オフィスを開設した。東京駅の丸の内側正面にある「新丸の内ビルディング」の11階で、都内に拠点を構えるのは初めて。

過度の円安や長らく燃料・光熱費・物価の高騰など、日本の企業を取り巻く状況は相変わらず厳しい。こうした中でも三重県の企業は自ら動き、新たなフィールドを開拓する。次の成長への足がかりとして、培ってきたノウハウや経験を生かした新製品開発や新事業展開を積極的に進めている。また、県内の金融機関や産業支援機関は、セミナー やシンポジウム、相談会などを定期的に開催。企業が必要としている情報や知識を得る 機会を提供するなど、各機関の特色を生かした活動で成長を支える。

新たなフイールドを開拓 ノウハウ生かした新製品開発、新事業展

シックな内装、ガラス張りのバーでイシヨンで区切られた東京オフィス



アルミナ(左)と、炭化ケイ素(SiC)(右)

森精機製の5軸加工機と超音波加工機を導入した。機械などを含めた総投資額は約2億円。

A black and white photograph of a large industrial machine, identified as a vertical composite grinding and planing machine. The machine is a tall, rectangular unit with a light-colored front panel and a dark control section on top. It is situated in a factory environment with other machinery visible in the background.

感を持つて仕事ができる点も大きなメリットだ。また、知名度が高く立地の同ビルにオフィスがあることも、同社のブランドイメージ形成においてメリットがあり、人材獲得などに生かしていく考え方だ。常駐は1名で、現在は同ホールディングス社員が持ち回りで担当。1年後に正式な担当者を決定する予定。

じ ゃ ば ら
蛇腹 のナベルは工作機械もロボットもカバー

総合熱処理 株式会社 オーネックステックセンター